

素案

第2次三和町まちづくり基本構想

～50年後も残る三和町～

みんなが自分のペースで無理なく進める

令和6年5月**予定**

三和町地域振興協議会

第2次三和町まちづくり基本構想 全体概要（目次）

第1章 構想の基本的な考え方（P1）

1. 構想策定の趣旨：時代状況の変化を踏まえ、新たな指針となる第2次構想を策定
2. 構想の期間：令和6年度(2024)～令和15年度(2033)の10カ年
3. 構想の位置づけ：市の「里山の暮らしを支える地域づくり方針と整合性を図る
4. 構想の構成：基本理念、重点戦略、重点施策の3層構造



第2章 三和町を取り巻く現状(P3)

第1節 三和町の現状(P3)

1. 地勢：山あいの地形、一次産業中心、道路網や光ファイバー整備
2. 人口推計：現状(2023年)2,649人が何もしなければ25年後(2048)には1,135人に半減
3. 前構想の総括：活動の道しるべとしての役割を果たす

第2節 三和町の強み・弱みの抽出(P5)

作業部会、アンケート(三和小中学生、集落支援員、一般)、三和中学1年生のワークショップから強み・弱みを抽出

→住環境、学校、人・つながり、農林業、交通、歴史・文化、その他区分で強みを整理

→住環境、人・人間関係、少子高齢化、交通、買物、その他の区分で弱みを整理

第3節 三和町の課題(P9)

強みから「人」、「学校」、「環境」を重点戦略として設定



強みを生かしつつ、弱みを克服すべき課題分野を以下のとおり整理

- | | |
|----------|--|
| 重点戦略1：人 | (1)「つながり」
(2)「農林業」
(3)「人間関係」
(4)「防災」
(5)「移住」 |
| 重点戦略2：学校 | (1)「通学」
(2)「学校の拠点化」 |
| 重点戦略3：学校 | (1)「住環境」
(2)「交通の便」
(3)「買い物」
(4)「拠点」 |

第3章 三和町の目指す姿とその実現のための施策（P11）

基本理念 50年後も残る三和町！

重点戦略1 三和町の素晴らしい人を活かす(P13)

- (1) 人のつながりの再構築
施策1 各地区のお祭りを残していく
- (2) カッコいい農林業ができる場所としてPRする
施策2 先進的な技術のPR
施策3 木材資源の有効活用
- (3) 最適な人間関係を目指して
施策4 新しい近所づきあいの模索
- (4) つながりを活かした防災
施策5 地域外との絆を強化
施策6 防災訓練のイベント化
- (5) 様々な移住を受け入れる
施策7 移住を受け入れるという地域住民の意識の醸成

重点戦略2 三和町の素晴らしい学校を活かす(P15)

- (1) 通学の利便性
施策8 小中学校通学バスの維持
施策9 高校進学後の送迎体制の確立
- (2) 学校を拠点とした新しい取組みによるにぎわいづくり
施策10 三和町大同窓会（三和町版ホームカミングデー※）の開催
- (3) 様々な移住を受け入れる【再掲】
施策7 移住を受け入れるという地域住民の意識の醸成【再掲】

重点戦略3 三和町の素晴らしい環境を活かす(P17)

- (1) 快適な住環境を目指す
施策11 空き家や高齢者のみの家の活用
施策12 実家もしくは実家周辺に住んでもらう「ふるさと回帰」の推奨
施策13 光通信が整っていることをPR
- (2) 交通の便の良さをPR
施策14 ライドシェアの活用
施策15 大きな道路があることをもっとPR
- (3) 次世代の買い物を活用
施策16 ネット通販による買い物等が容易であることをPR
施策17 無人コンビニの導入
施策18 ふれあい市場のコンビニ化
- (4) 地域の拠点をつくる
施策19 道の駅等、地域の拠点となるような、人が集まるところを作る
施策20 有効な情報を収集し発信するワンストップで済むような組織

第4章 構想の推進体制と進行管理(P19)

第1節 構想の推進体制と各主体の役割(P19)：地区内外住民、関係機関、協議会等

第2節 構想の進行管理(P20)：P D C Aサイクル

おわりに(P21)

第1章

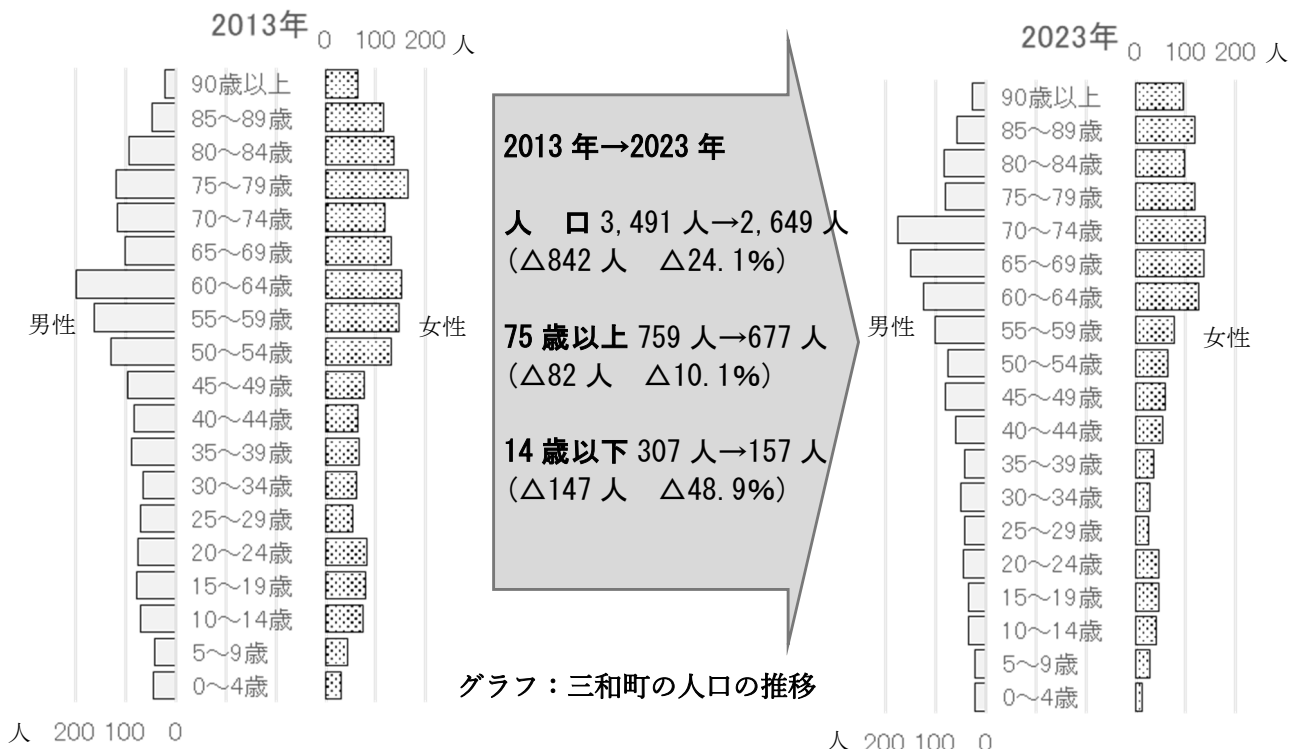
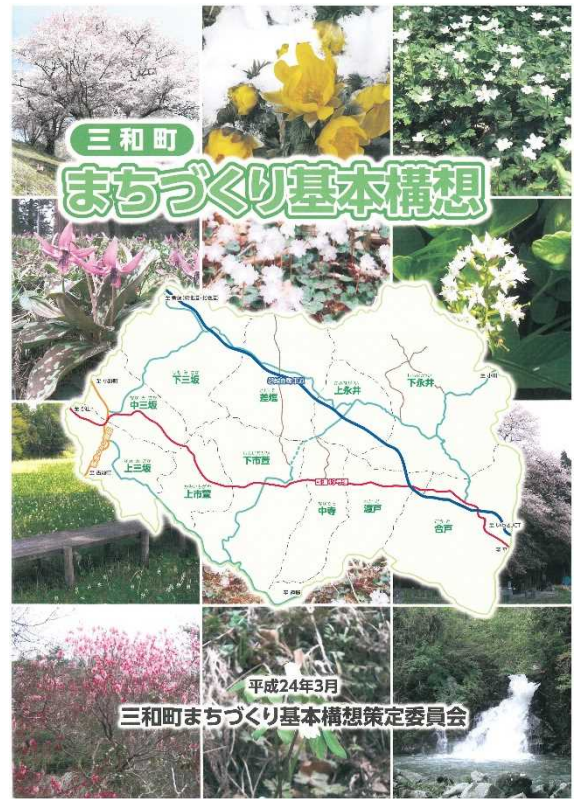
構想の基本的考え方

1. 構想策定の趣旨

これまで三和町地域振興協議会では、「三和町まちづくり基本構想」を平成24年3月に策定し、基本目標である『「自然が輝き・人が輝き・まちも輝く 三和の里づくり」～春は花、夏は星、秋のもみじ、冬の人情、いっしょに住まんしょ三和のまち～』の実現に向け、まちづくりに取り組んできました。

当該構想の策定から10年以上が経過し、少子高齢化や人口減少の問題など引き続き取り組んでいく必要がある課題のほか、脱炭素社会に向けた動き、社会経済の急速な変化や相次ぐ自然災害など、新たな課題も浮上しています。

こうした情勢を踏まえ、三和町のまちづくりを進めていくことが必要になっていることから、今後の三和町の目指すべき方向性を明確にするため、今回新たな「第2次三和町まちづくり基本構想」を策定するものです。



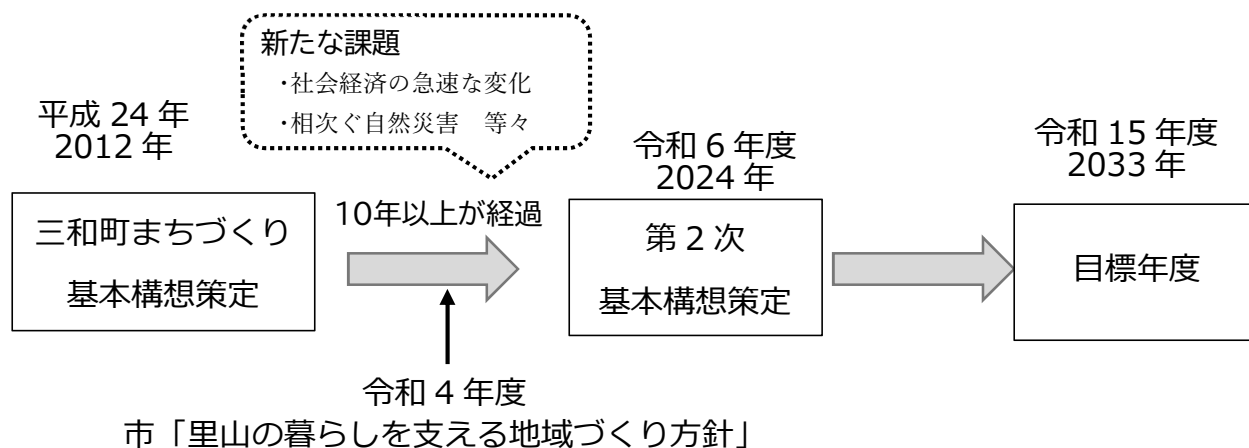
2. 構想の期間

構想の期間は、令和6年度（2024年）を初年度とし、令和15年度（2033年）を目標年度とする10カ年の構想とします。

なお、三和町を取り巻く情勢等に大きな変化があった場合は、構想の見直しについて弾力的に対応していくものとします。

3. 構想の位置づけ

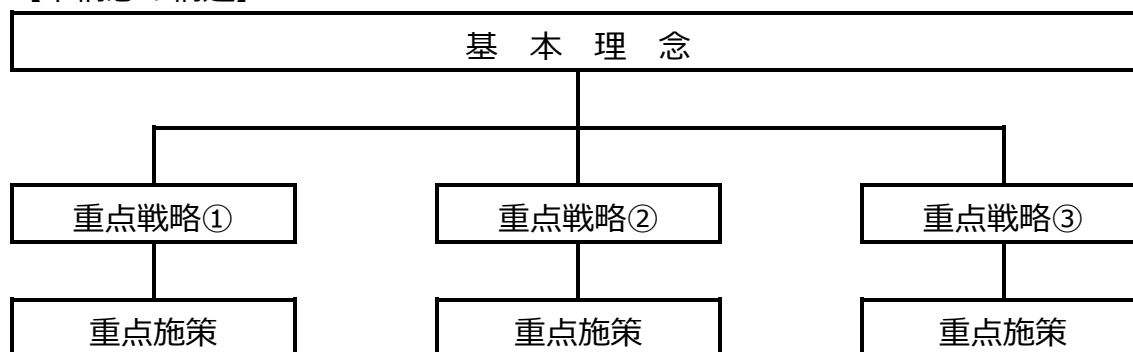
本構想は、三和町の実情に即し、地域に根差し、まちの特色や独自性を活かす形で策定していますが、市が令和4年度に「里山の暮らしを支える地域づくり方針」を策定したことを踏まえ、本構想についても市の方針と整合を図っています。



4. 構想の構成

本構想は3層構造であり、重点的に実施する施策に限定した記載とすることとし、明確でわかりやすい構想としています。

【本構想の構造】



第2章

三和町を取り巻く現状

第1節 三和町の現状

1. 三和町について

三和町は、いわき市の西部、阿武隈高地に位置し、市内では最も面積が広い地区となっています。西は田村郡、石川郡と接しています。

東に水石山、西に芝山がそびえ、平地でも平均海拔は460mもあります。地区の中央は国道49号線に沿って好間川が、東方を南北に小玉川、北方を東西に三阪川が流れ、河川に沿って集落地域が形成されています。

三和町は現在、大字毎に「上三坂」「中三坂」「下三坂」「差塩」「上永井」「下永井」「合戸」「渡戸」「中寺」「上市萱」「下市萱」の11の行政区で構成されています。

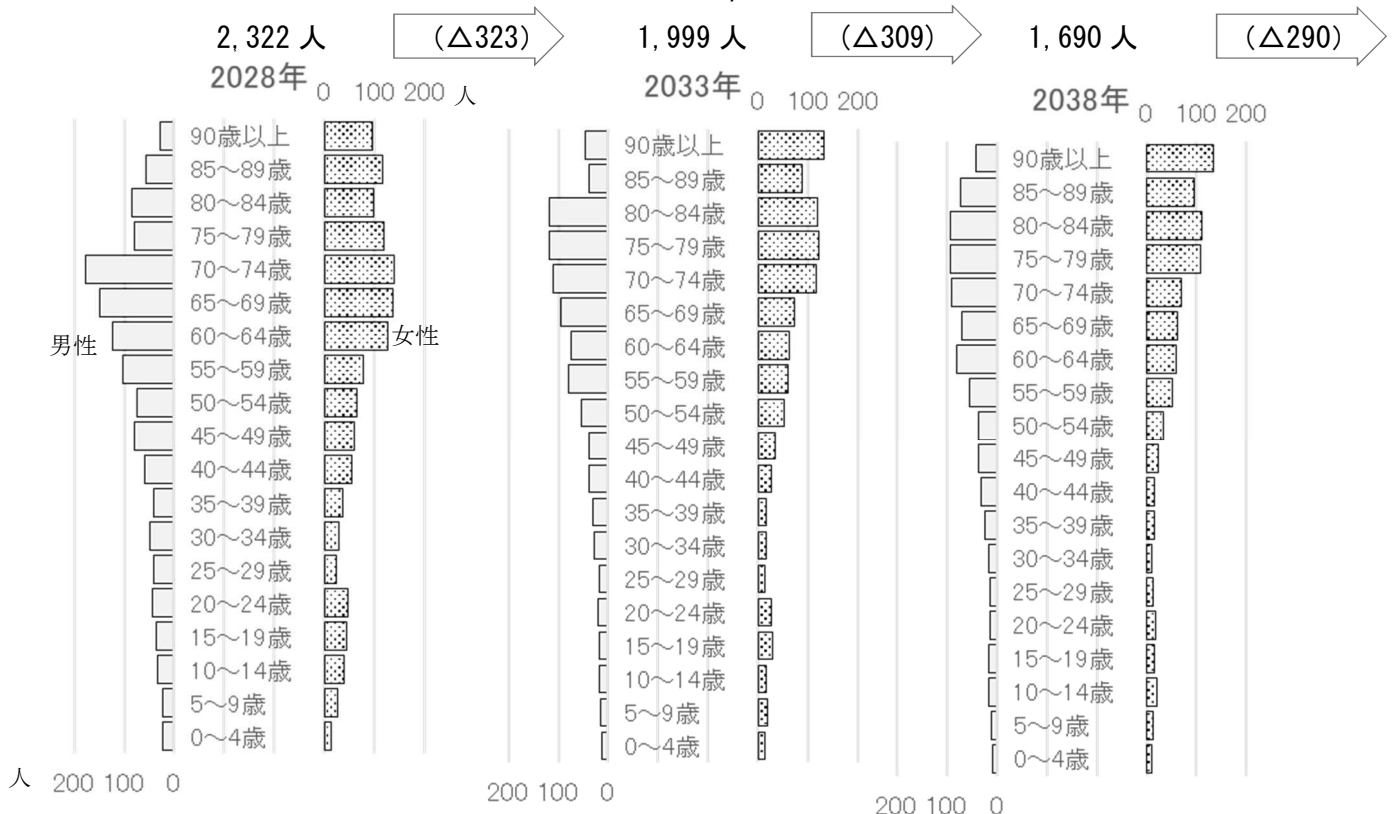
山林面積が多く、一次産業が中心であるため、住宅以外は山林、農地が大部分を占めます。

近年の道路網整備による利便性向上や、光ファイバー整備による高速インターネット回線が利用可能になったことなどにより、地域住民の生活様式が多様化しつつあります。

2. 25年後の三和町の人口推計（2023年→2048年）

三和町の2023年の人口は2,649人、10年前の2013年の3,491人と比較し24.1%の減となっており、全国の中山間地域と同様に減少傾向で推移しています。

このまま減少傾向の現状が維持されると仮定し25年後の三和町の人口を推計すると、2023年と比較し57.1%減の1,135人となることが予想されます。



3. 前構想の総括

前構想は、三和町全体が共通の認識のもとに一丸となりまちづくりに取り組むために策定された、三和町としては初のまちづくり基本構想でした。

内容としては、「理念」「目標」「構想の柱」による三和町全体としての取組みが具体的に記載され、さらに構想の体系において、大字11地区毎の特色や地区毎の取組みも網羅されており、三和町の総合的なまちづくりのための活動の道しるべ、指針としての機能を十分に発揮してきたと評価することができます。

三和町まちづくり基本計画

【基本理念】

三和の豊かな自然を将来にわたって維持し、生活する人がいきいきと暮らし、そこに集う人が加わり、輝くまち・三和の里づくりの実現をめざします。

四季により移り変わる豊かなまちの顔を活かし、すべての人が住み続けたいと思う持続可能なまちづくりに取り組みます。

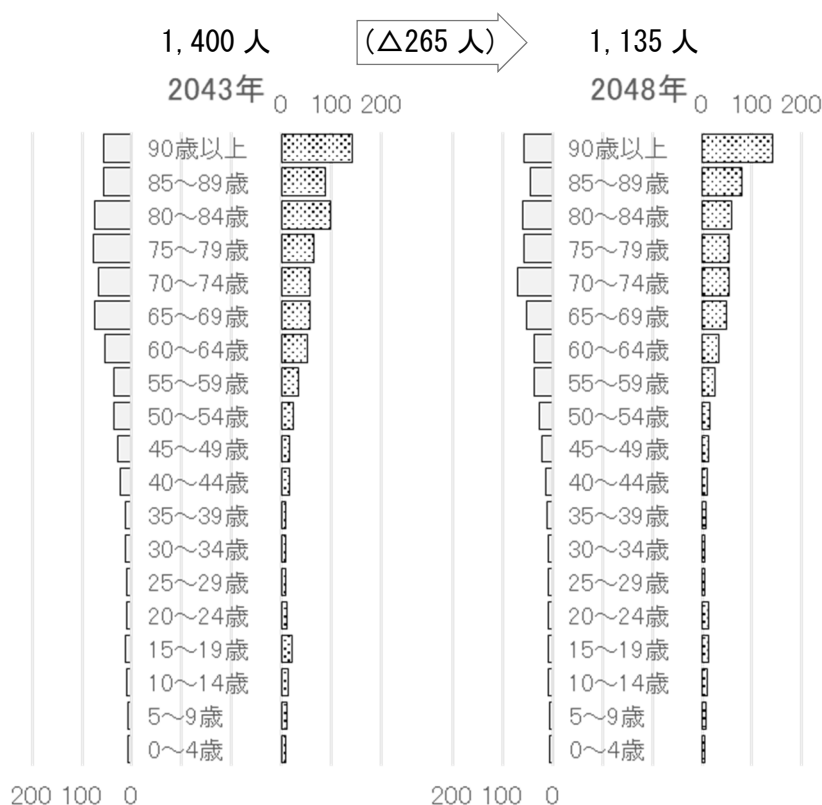
【基本目標】

「自然が輝き・人が輝き・まちも輝く 三和の里づくり」

～春は花、夏は星、秋のもみじ、冬の人情、
いっしょに住まんしょ三和のまち～

【構想の柱と事業】

- 1 四季を感じ、人の心を豊かにする美しい自然環境
- 2 元気とふれあいを生み出す豊かで美味しい農産物
- 3 世代を超えて持続する誇りある伝統と歴史
- 4 住み続けたい、暮らしやすい生活環境



【人口推計 現状維持】
2023年→2048年
 人口 2,649→1,135人
 (△1,514人 △57.1%)
 75歳以上 677人→550人
 (△127人 △18.8%)
 14歳以下 157人→43人
 (△114人 △72.6%)

第2節 三和町の強み・弱みの抽出

三和町の抱える課題を掘り起こすため、①作業部会、②三和小中学校の小学5年生～中学3年生アンケート(70名)、③一般アンケート(24名)、④集落支援員アンケート(11名)、⑤三和中中学校1年のワークショップにより三和町の強み弱みを抽出しました。(P8参照)

強みのキーワード

住環境(自然)

【作業部会】

- ・季節を感じられる
- ・空気がうまい
- ・紅葉がきれい
- ・自然がある
- ・自然が豊かである
- ・水がおいしい
- ・星がきれい
- ・川、山、田畑など静かで落ち着ける所がたくさんある
- ・動物がたくさんいる

【集落支援員】

- ・空気がおいしく、自然が豊か
- ・水、空気がきれい
- ・水がおいしい
- ・自然がある、豊富
- ・自然な食べ物(山菜)が多い
- ・自然豊かで人々のつながりがある
- ・小川のせせらぎ、若葉、新緑のさわやかさ
- ・田、畑、山の緑が多い
- ・山間地

【三和小中】

- ・自然がたくさん・自然が多い
- ・自然が豊かでのどかなところ
- ・自然なところ
- ・自然を楽しめる、自然豊か
- ・自然、緑、IC
- ・たくさんの動物がいるところ
- ・やま、森、みどり、動物が多い
- ・空気がきれい、川がきれい
- ・山・鳥・田舎・スポットがある
- ・森林が多くあるところ
- ・絶景が多い
- ・朝早く外に出ると鳥が鳴いていてストレス発散になる
- ・田んぼなどが広がっていて自然が豊かだと思います
- ・毎日違う種類の虫を見つけられるところ
- ・野菜がうまい
- ・緑がたくさん

【三和中1年】

- ・夏の青空がきれいすぎる
- ・山がきれい
- ・水がきれい
- ・田んぼがきれい
- ・冬になると星が山ほど
- ・下三坂の福寿草
- ・海が見える塩見山
- ・好間川沿いの桜
- ・差塩の宇宙岩
- ・上市萱の一杯清水
- ・上市萱の紅葉
- ・上市萱地蔵尊の紅葉や桜
- ・動物が多い
- ・夏の暑さや冬の寒さがキツくない
- ・災害が少ない
- ・雨が少ない

学 校

- ・学童がある(作業部会)
- ・中学校の部活(ソフトテニス、バドミントン)が強くて有名(作業部会)
- ・学校がアットホーム(作業部会)
- ・少人数教育で勉強ができる(作業部会)
- ・学区外からも子供受け入れOK(作業部会)
- ・校庭が広い(三和小中)

住環境(自然以外)

- ・静か(集落支援員)
- ・静かなところ(三和小中)
- ・周りに雑音がない(集落支援員)
- ・人が少なくて静か(三和中1年)
- ・大きな声を出しても大丈夫(三和小中)
- ・木造建築が多い(三和中1年)
- ・土地が広い(作業部会)
- ・土地が安い(作業部会)
- ・光ファイバー(作業部会)
- ・少し都会に出ると結構充実(三和中1年 WS)
- ・にぎやか(三和小中)
- ・楽しめる場所が多い(三和小中)
- ・町全体が明るい(三和中1年)
- ・三和で取れた野菜が買えるふれあい市場(三和中1年)

人・つながり

【作業部会】

- ・地域のつながりがある
- ・人間関係が密
- ・近所づきあいが濃い
- ・近所の人顔、全部知っている

【集落支援員】

- ・地区、地域の団結力がある
- ・人間性があり、温かみがある
- ・近隣の助け合い、交流が良い
- ・義理と人情がある
- ・協力という深いきずなが少し残っていると思う
- ・人が優しい

【一般】

- ・人としての人情が厚い
- ・人と人のつながりが強い
- ・人間のあたたかさ
- ・古い事柄を大事にする意識が強い

【三和中 1 年】

- ・元気いっぱいの子ども
- ・人との関わりあいがいい
- ・おばあちゃんたちの顔が広い

【三和小中】

- ・子供たちが明るい
- ・みんな元気
- ・地域の人々のつながりが深い
- ・人のつながりが強い
- ・地域全体の交流が多い
- ・みんな仲がいい
- ・一人ひとりが優しい
- ・地域の人々がやさしく、明るい
- ・地域の人たちが優しい
- ・おじいちゃん、おばあちゃんが優しい
- ・一人ひとりが明るく優しい
- ・みんながわらってくれて面白い暮らしができています

- ・人が優しい
- ・野菜のおすそわけ
- ・婦人消防隊
- ・都会に慣れてる人が多い
- ・野菜作りの名人なおばあちゃん
- ・いつも稲刈りしてくれる近所のおじいちゃん
- ・へびでお酒が作れる近所のおじいちゃん

農 林 業

- ・材木になるような木がたくさんある(作業部会)
- ・豊富な山林資源(作業部会)
- ・杉林が整備されている(一般)
- ・林業(三和小中)
- ・林業(三和中 1 年)
- ・森林が多い(三和中 1 年)
- ・米がおいしい(作業部会)
- ・野菜がおいしい(作業部会)
- ・農地が整備されている(作業部会)
- ・第一次産業をやるなら三和(作業部会)
- ・ブルーベリーの木(三和中 1 年)
- ・野菜がおいしい(集落支援員)
- ・畜産業と農業(三和中 1 年)
- ・ポニー(三和中 1 年)
- ・むすめきたか(三和中 1 年)

そ の 他

- ・フェスティバル類が楽しい(もっとやってもいい・・・)(三和小中)
- ・三和の里フェスティバル(三和中 1 年)
- ・三和の里フェスティバル(三和小中)
- ・イベントがあること(三和小中)
- ・地域のお店がある(三和小中)
- ・知る人ぞ知る名所あり(三和小中)
- ・広い(一般)
- ・鉱物資源に富む(一般)
- ・たのしい(三和小中)
- ・やさしい(三和小中)

交 通

- ・磐越道、国道 49 号線によるアクセスの良さ(作業部会)
- ・国道 49 号線、高速道路が通っている(集落支援員)
- ・国道が 2 本通ってる(作業部会)
- ・高速道路が通ってる(作業部会)
- ・国道 49 号線沿いの集落が多い(作業部会)
- ・IC が町内にある(作業部会)
- ・差塩 PA がある(作業部会)
- ・郡山に近い(作業部会)
- ・首都圏へのアクセスが良い(作業部会)

歴史・文化

- ・いっぱい歴史がある(三和小中)
- ・昔の文化があるところ(三和小中)
- ・伝統のものが多く(三和小中)
- ・三和太鼓(三和小中)
- ・行事などを行える(集落支援員)
- ・下市萱諏訪神社のお祭り(三和中 1 年)
- ・ししまい(三和中 1 年)
- ・上市萱の巖島神社(三和中 1 年)
- ・秋のお花見泥棒(三和中 1 年)
- ・じゃんがら(三和中 1 年)

弱みのキーワード

住環境(自然)

- 山間部(一般)
- 山ばかり(三和小中)
- 森が多すぎ(三和小中)
- 冬、寒くて雪ふる(作業部会)
- 寒い(集落支援員)
- 野生動物が多い(集落支援員)
- 危険な動物が多い(三和小中)
- 山に危険な生き物が多い(三和中1年)
- 虫が多い(三和小中)
- 虫が多い(三和中1年)
- いなか(三和小中)
- 花粉の多さ(三和小中)

交通

- 交通が不便(一般)
- 交通が不便(集落支援員)
- 交通の便が悪い(一般)
- 交通機関が不便(一般)
- 街で飲んだらすぐ帰れない(作業部会)
- 自家用車がないと不便(作業部会)
- 車がないとどこにも行けない(作業部会)
- 自家用車がないと不便(集落支援員)
- 町まで遠い(作業部会)
- 車の音がうるさい(トラック)(三和小中)
- 信号がない(三和中1年)
- どこに行くのにも遠い(三和小中)
- 駅から遠い(三和小中)

住環境(自然以外)

- 病院、スーパーが遠くて老後に不安です(集落支援員)
- 病院、医院がない(集落支援員)
- 病院が遠い(集落支援員)
- 病気になったときの不安(集落支援員)
- 病院がない(一般)
- 医療機関がないため救急の時に困る(集落支援員)
- 携帯電話の電波が繋がらない(集落支援員)
- インターネットがあまり整ってない(三和小中)
- 生活に困ることが多い(一般)
- 必要なものがない(一般)
- 子供が遊ぶ施設がない(作業部会)
- 外灯がなく、夜歩いて外へ出るのが心配(集落支援員)
- 公園がない(三和小中)
- 遊び場、店がほとんどない(三和小中)
- 遊ぶ施設が少ない(三和小中)
- 暇つぶしできる場所がない(三和小中)
- 建物がない(三和中1年)
- なにもない(三和小中)
- 生活するのが不便なところ(集落支援員)
- 家と家の距離が遠い(三和小中)

買物

- お店が遠い(作業部会)
- 規模の大きいお店がない(作業部会)
- 商店がなく買い物ができない(作業部会)
- 日常の買い物がしづらい(作業部会)
- スーパーがない(集落支援員)
- スーパーとかなく生活するのに不便なところがある(集落支援員)
- スーパーが遠い(三和小中)
- スーパーやコンビニが遠い(三和中1年)
- 商店がない(集落支援員)
- 店が少ない(三和小中)
- 商業施設が少ない(三和小中)
- 買い物の不便さ(集落支援員)
- イオンモールなどのショッピングするところがない(三和小中)
- コンビニが遠い(三和小中)
- コンビニが少ない(三和小中)
- 広い面積を活かしてスーパーコンビニなど店類を作してほしい(三和小中)
- 買い物がもっと手軽に(三和小中)
- 買い物などが不便(三和小中)

人・人間関係

- ・近所の目が気になる(作業部会)
- ・住民の活気があまり感じられない(作業部会)
- ・出る杭は打たれる(作業部会)
- ・他人に干渉しすぎ(作業部会)
- ・地区間に壁がある(作業部会)
- ・閉鎖的な村社会(作業部会)
- ・変なプライドがある(作業部会)
- ・部落には必ずひとりはうるさい人がいる(集落支援員)
- ・新しい事柄にアレルギ-を持っている(一般)
- ・昔ながらのやり方に固執している(一般)
- ・部落意識が強い(一般)
- ・読書家が少ない(三和中1年)

少子高齢化

- ・子供が少ない(集落支援員)
- ・若者が住んでいない(集落支援員)
- ・若者の減少(集落支援員)
- ・子供が少ない(三和小中)
- ・高齢化(集落支援員)
- ・高齢者が増え、若者が減ってきている(集落支援員)
- ・高齢者が多い(集落支援員)
- ・人が少ないところ(三和小中)
- ・人口が少ないところ(三和小中)
- ・人口減少(一般)
- ・少子高齢化(三和中1年)
- ・過疎化(集落支援員)
- ・人が来ない(三和中1年)

その他

- ・何も無い(一般)
- ・三阪・沢渡・合戸、3つの地区の相互理解がない(一般)
- ・若者の働く場所がない(一般)
- ・イベント、PRは他の地域に届いているか?(作業部会)
- ・ドキドキしない(作業部会)
- ・広すぎる(作業部会)
- ・働く場所がない(作業部会)
- ・アニメイト、カラオケなどが無い(三和小中)
- ・建物が少ない(三和小中)
- ・山を活かしてゴルフ場(三和小中)
- ・出かけるところがない(三和小中)
- ・新しい行事が少ない(三和小中)
- ・新しくないこと(三和小中)
- ・都会にあるものがない(三和小中)
- ・がけ崩れが多い(三和中1年)
- ・ボロボロな差塩湿原(三和中1年)
- ・国道や川にゴミが多い(三和中1年)
- ・木が多い(三和中1年)
- ・災害の被害がでる(三和小中)

①作業部会

令和5年10月13日に実施した第3回作業部会において、部会員が三和町の強み弱みを考え、付せんに書き出し貼っていく分析作業を行った。

アンケート

令和5年10月30日に実施した、白石烈氏による講演会「どうする三和町～戊辰戦争と三和町の関わり～」において、聴講した三和小中学校の小学5年生～中学3年生と一般来場者を対象に三和町の強み弱みについてのアンケート調査を実施した。

また、女性の意見をなるべく多く取り入れる観点から、現在、三和町11地区の女性11名で構成されている、中山間地域集落支援員を対象に三和町の強み弱みについてのアンケート調査を実施した。

合計：105件（男性38件36.2%、女性63件60%、回答なし4件3.8%）

②三和小中学校：70件（男性27件38.6%、女性39件55.7%、回答なし4件5.7%）

③一般来場者：24件（男性11件45.8%、女性13件54.2%）

④集落支援員：11件（男性0件0%、女性11件100%）

⑤三和中学校1年生ワークショップ

令和5年10月20日に実施した、三和地区地域おこし協力隊と三和中学校1年生が連携した地域おこし企画でのまちづくりワークショップ内で三和についての強み弱み等を整理。

第3節 三和町の課題

前記した三和町に係る基本データ、前構想の総括、三和町の強み弱みなどを基に「作業部会」において三和町の抱える課題について整理を行いました。その内容については次のとおりです。

【強みから見えた重点戦略として活かしたい点】

「人」、「学校」、「環境」→この3項目を重点戦略に！

【弱みから見えた課題】

重点戦略1. 人

- (1) 「つながり」の主な課題など
 - ・地域の伝統を守る
 - ・お祭りは、その地域出身の人が戻ってくる機会にもなる
 - ・お祭りの場が地域に住む人と出身者との交流の場になっている
- (2) 「農林業」の主な課題など
 - ・後継者不足
 - ・きつい仕事というイメージがあるのでかっこいいというイメージにした
い
 - ・手入れされないまま残っている杉林
 - ・針葉樹から広葉樹への転換が必要と考える
- (3) 「人間関係」の主な課題など
 - ・人足の負担感が大きい
 - ・濃すぎる人間関係に疲れることがある
- (4) 「防災」の主な課題など
 - ・一人暮らしの老人が増え、災害時の避難に不安があるのではないか
 - ・消防団の活動にも限界がある
- (5) 「移住」の主な課題など
 - ・三和に住む人を増やしたい
 - ・長男しか家に戻ってこない風潮をなんとかしたい

- ・三和小中学校に進学させたいが住むところがなくあきらめるケースを聞いたことがある
- ・子供が少ない
- ・三和小の入学者が毎年減少傾向
- ・若い世代の減少率が目立つ

重点戦略2. 学校

(1) 「通学」の主な課題など

- ・高校進学すると親頼みの部分がある。
- ・小中学校の通学バスは維持してほしい

(2) 「学校の拠点化」の主な課題など

- ・三和小中学校を活かしてイベントをしてみてもどうか

重点戦略3. 環境

(1) 「住環境」の主な課題など

- ・住むところがない
- ・空き家があるものの活用できない
- ・子育ての期間だけでもルームシェアとして活用できる家があればいいと思う

(2) 「交通の便」の主な課題など

- ・バスの路線が少なくなっていることが不安
- ・高齢になり車が運転できなくなった時が不安

(3) 「買い物」の主な課題など

- ・買い物に町まで行くのが不便
- ・三和町ふれあい市場がもっと便利になってくれたらうれしい

(4) 「拠点」の主な課題など

- ・欲しい情報が届かない
- ・三和町内外の人に有効な情報を発信する組織があればよい
- ・住民が集い、地区外からの人も集まることができる拠点が欲しい

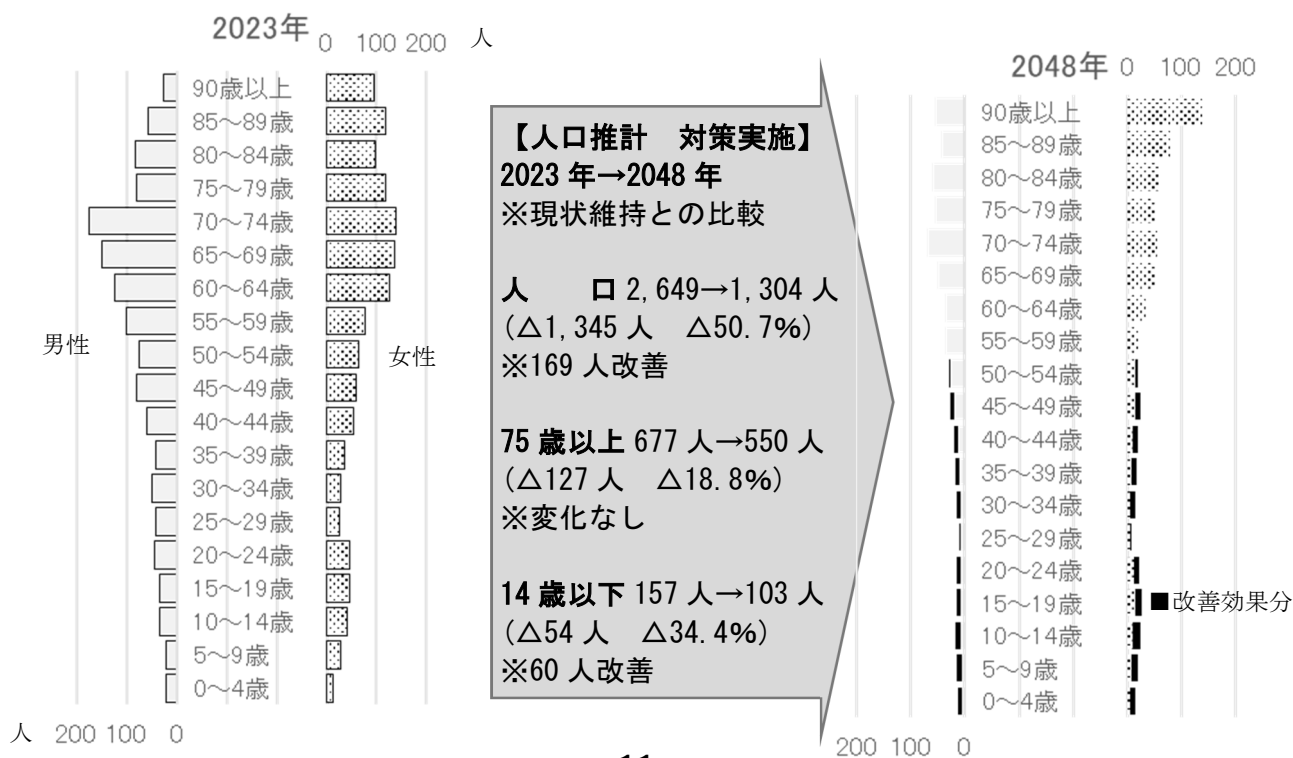
第3章 三和町の目指す姿とその実現のための施策

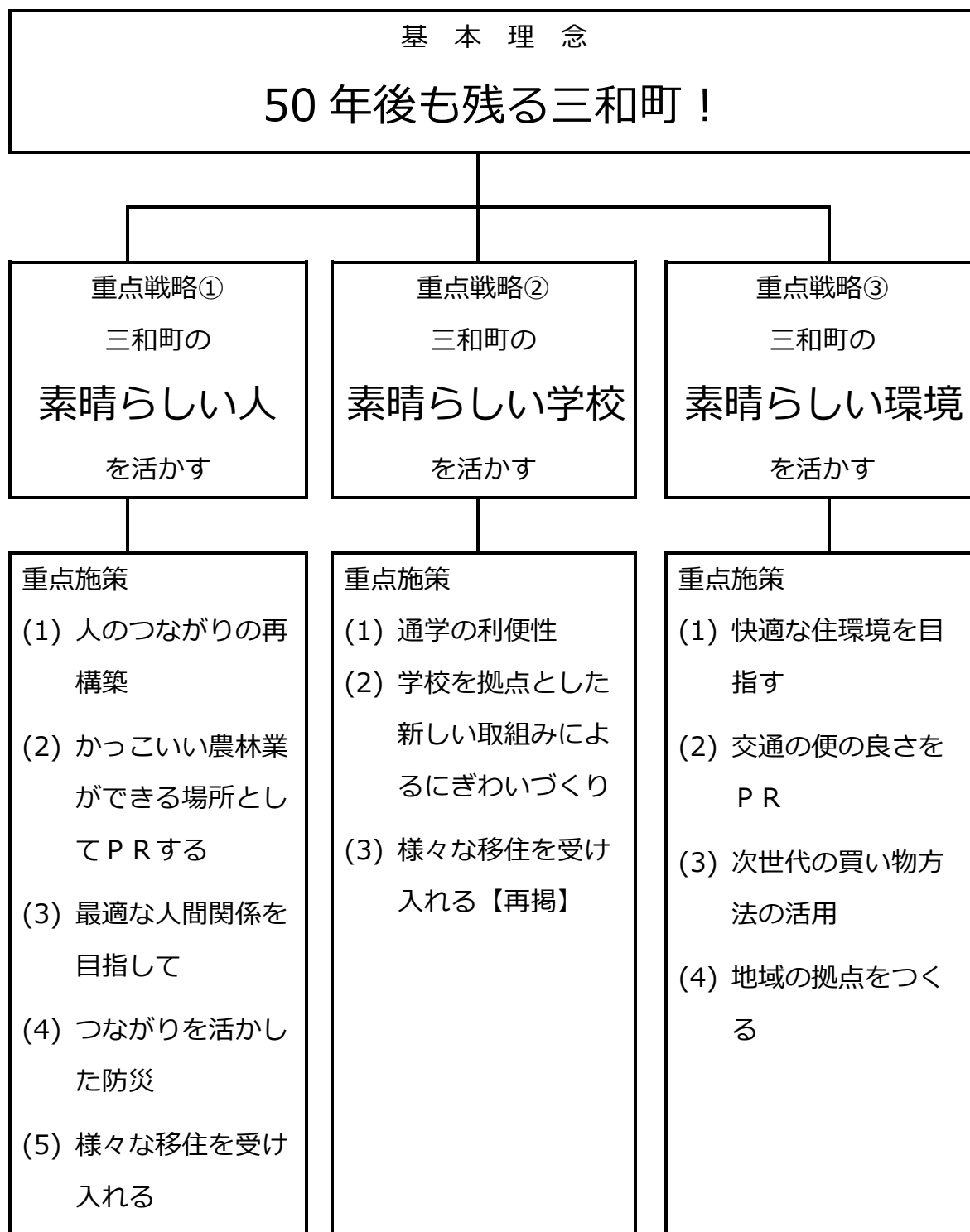
基本理念：50年後も残る三和町！

基本理念が示す三和町を目指す姿

- 全国的な人口減少傾向の中で、三和町も右肩上がりの人口増加は見込めない状況であり、現実的な施策を考えていくために、作業部会ではアンケート結果や統計データを分析してきました。その結果として、三和町の小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持に直結することを導き出しました。
- 統計データから推計した結果、「毎年1組の親子を増やす」かつ「若者の流出率を0.1ポイント改善」「出生率をいわき市並みにする」この3つの条件を達成することで、25年後、人口は約半減しますが（2,600人→1,300人）、次世代を担う14歳以下の人口は100人台を維持できます（150人→100人）。
- アンケート調査からわかった、三和町の強みである「人」「学校」「環境」を重点戦略として活用し、弱みなどから抽出した課題を重要施策として解決していくことで2023年の人口数を維持し、「50年後も残る三和町！」を目指します。
- この目指す姿を実現するため、以下の3つの数値目標を設定し、第2節で定める重点戦略に基づいて各種施策を実施し、数値目標の達成に向けて取り組みます。

No.	数値指標	現状（2023）	目標
1	毎年1組の親子を増やす	なし	毎年1組
2	若者（15歳～24歳）の流出率を0.1ポイント改善	男：0.7 女：0.6	男：0.8 女：0.7
3	出生率（子供女性比率）をいわき市並みにする	0.25	0.34





重点戦略及び重点施策

第2章で分析した三和町を取り巻く課題を解決し、本構想の基本理念を達成するため、重点施策を複合的に実施する体系として3つの重点戦略を定め、三和町のまちづくりの指針とします。また、本構想においては、三和町のまちづくりにおいて特に力を注ぐべき重点施策を定め、その進行管理、経過管理及び成果把握のため、実施指標※を設定しています。

※実施指標

重点戦略に基づいて施策を実行していく中で、状況の経過管理を行う指標です。数値目標は設定せず、実施したかどうか、また結果としてどのように状況が変化しているのかを確認します。

重点戦略①	三和町の素晴らしい人を活かす
戦略概要	三和町の素晴らしい人を活かし、新たな交流を生む拠点の整備やコミュニティを作ること、地域への移住を促進することなど、三和内外の人々と活気ある三和町を作っていきます。

【重点施策】

(1) 人のつながりの再構築

施策1 各地区のお祭りを残していく

- ・お祭りを次世代に伝えていくことは、地域の文化や歴史を守ることにつながります。
- ・お祭りは、その地域出身の人が戻ってくる機会となることから、お祭りの場が地域に住む人と出身者との交流の場となることが期待できます。

【実施指標】 ……………現状：維持 目標：維持

(2) カッコいい農林業ができる場所としてPRする

施策2 先進的な技術のPR

- ・機械やドローンを活用した農林業をPRすることにより、都市部ではできないカッコいい職業として、若者に魅力を伝えます。

【実施指標】 ……………現状：していない 目標：した

施策3 木材資源の有効活用

- ・三和町内の豊かな森林資源を活かし、特産品をつくる等、新たな可能性を模索しながら、持続可能な林業を目指します。

【実施指標】 ……………現状：していない 目標：した

(3) 最適な人間関係を目指して

施策4 新しい近所づきあいの模索

- ・様々な世代がお互いに歩み寄り、現代の多様なライフスタイルに合ったいい距離感で交流できる環境の構築を目指します。これにより、新たな住民も安心して暮らせる環境が整うことが期待できます。

【実施指標】 現状：していない 目標：した

(4) つながりを活かした防災

施策5 地域外との絆を強化

- ・市から指定されている避難場所となっている他地域との旅行等を通じた交流を行い、あらかじめ情報共有や協力体制を作ることを通じて、市外避難を求められるような、大災害時におけるスムーズな連携体制をとれるような対策を進めます。

【実施指標】 現状：していない 目標：した

施策6 防災訓練のイベント化

- ・三和町体育祭や三和の里フェスティバル等の地域のイベントとして地域の人々が気軽に参加できる形で防災訓練を実施します。
- ・イベントとして楽しみながら防災意識を高めます。

【実施指標】 現状：していない 目標：した

(5) 様々な移住を受け入れる

施策7 移住を受け入れるという地域住民の意識の醸成

- ・三和町に住んでもらうことは、三和町の活性化に直結します。新たな住民が増えることで、経済や文化が活発化し、地域全体の力が高まります。
- ・男女問わず、年齢層問わず、独身、夫婦問わず、職業問わず、生き方の多様化を受け入れ、どんな形であってもいいので、三和町に住んでもらいたいという地域住民の意識を持ってもらうことを期待します。
- ・小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持につながることから、子育て世代の移住を期待します。

【実施指標】 現状：していない 目標：した

重点戦略②	三和町の素晴らしい学校を活かす
戦略概要	三和小中学校（以下「学校」と言います。）は、三和町に根差した教育を提供しており、地域を知ることは、子供たちにとって多くの利点があるといえます。三和町の素晴らしい学校を活かし、三和町の小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持につながります。

【重点施策】

(1) 通学の利便性

施策 8 小中学校通学バスの維持

- ・通学バスの維持により、子供たちは安全かつ効率的に学校へ通うことができます。

【実施指標】現状：維持 目標：維持

施策 9 高校進学後の送迎体制の確立

- ・親の送迎のみに頼らず、公共交通機関等を活用した送迎体制が確立されることで、三和に住む生徒たちは安心して通いたい高校へ進学することができます。

【実施指標】現状：なし 目標：確立

(2) 学校を拠点とした新しい取組みによるにぎわいづくり

施策 10 三和町大同窓会（三和町版ホームカミングデー※）の開催

- ・三和の里フェスティバルなどの実施に合わせ、学校敷地内において、三和町大同窓会（三和町版ホームカミングデー）を開催し、在校生のみならず、卒業生や地域の人々も参加し、様々な交流を行うことができる機会をつくり、地域の絆の再構築につなげます。
- ・参加者は、仕事や趣味、地域活動などでつながりを持ち、地域の結束が強まることが期待できます。
- ・学校の施設や教育環境を気軽に見学できる機会となり、入学希望者やその保護者に対して、学校の魅力を広くアピールすることができます。
- ・三和町と学校の交流や連携を強化することができ、子供たちの成長と学びをサポートすることができるイベントとなりえます。

【実施指標】現状：していない 目標：した

※ホームカミングデーとは

高校や大学が卒業生を招待して行うイベントで、卒業生が母校を訪れ、現役の学生や教職員と多彩なプログラムを通じて交流を深め、母校への愛着、将来の協力関係を育むための重要な機会となっています。

その発祥は、1911年にアメリカのミズーリ大学で開催されたイベントとされており、この概念は世界中の多くの大学等で採用され、日本においても卒業生と在校生の交流を深めるイベントとして人気を集めています。

(3) 様々な移住を受け入れる【再掲】 ※実施指標は重要施策①で管理

施策7 移住を受け入れるという地域住民の意識の醸成【再掲】

- ・小中学校に通う世代の人口を維持することが、三和町の人口数の維持につながることから、子育て世代の移住を期待します。

重点戦略③	三和町の素晴らしい環境を活かす
戦略概要	三和町の素晴らしい環境を活かすことが、三和町の持続的な発展と地域社会の活性化の実現につながります。

【重点施策】

(1) 快適な住環境を目指す

施策 11 空き家や高齢者のみの家の活用

- ・ 空き家を居住用に活用することにより、空き家の管理や維持、地域の美化に寄与することができ、地域の空き家問題を解決することができます。
- ・ 子育て世代等の移住者が空き家や高齢者のみが居住する家をシェアハウスやシェアルームとして活用し、複数の世帯が共に住むことで、新たなコミュニティが形成されます。

【実施指標】現状：なし 目標：活用

施策 12 実家もしくは実家周辺に住んでもらう「ふるさと回帰」の推奨

- ・ 三和町出身者が地域に戻ることは、地域にすぐ溶け込むことができるため、知らない土地に居住するよりは、移住に対するハードルが低いといえます。
- ・ 土地代等の経済負担が軽減されるメリットがあります。

【実施指標】現状：なし 目標：実施

施策 13 光通信が整っていることを PR

- ・ 高速インターネット通信環境が整備されていることを広く PR し、働く場所を選ばないノマドワーカー等の移住に寄与します。

【実施指標】現状：していない 目標：した

(2) 交通の便の良さを PR

施策 14 ライドシェアの活用

- ・ 経済的で便利な移動手段として、地域内外からのアクセスの向上が期待できます。

【実施指標】現状：していない 目標：した

施策 15 大きな道路があることをもっと PR

- ・ 国道 49 号線や 349 号線、磐越自動車道など、三和町の主要道路の存在をアピールし、車による通勤等の移動が意外にしやすいことや、三和を訪れる際の利便性の良さを知ってもらいます。

【実施指標】現状：していない 目標：した

(3) 次世代の買い物を活用

施策 16 ネット通販による買い物等が容易であることを PR

- ・高速インターネット通信を活用したオンラインショッピングやビジネスが容易であることをPRし、都市部と変わらない買い物環境であることを知ってもらいます。

【実施指標】 …………… 現状：していない 目標：した

施策 17 無人コンビニの導入

- ・人手不足を補い、24時間利用も可能な無人コンビニの導入は、生活するエリア内で気軽に買い物ができることから、地域の利便性の向上に効果があるといえます。

【実施指標】 …………… 現状：していない 目標：した

施策 18 ふれあい市場のコンビニ化

- ・地域の特産品や農産物を提供する三和町ふれあい市場が、さらにコンビニエンスストアの機能を展開することで、地域の活性化を図ることができると期待しています。

【実施指標】 …………… 現状：していない 目標：した

(4) 地域の拠点をつくる

施策 19 道の駅等、地域の拠点となるような、人が集まる場所を作る

- ・道の駅や地域の拠点を整備することで、地域住民同士の交流が活発化することが期待されます。
- ・人々が集まる場所を作ることで、交流や情報共有が行われ、地域内外のつながりが生まれることが期待されます。
- ・拠点において特産品を開発し販売することで、特産品を求めて三和町を訪れる人が増える等、地域経済への効果が期待されます。

【実施指標】 …………… 現状：なし 目標：整備

施策 20 有効な情報を収集し発信するワンストップで済むような組織

- ・地域の情報を一元化し、三和町に住む人、住みたい人、訪れたい人など様々な階層の人に有益な情報を提供できるような組織が求められています。
- ・三和町地域振興協議会の法人化により、その役目を担うことが期待されます。

【実施指標】 …………… 現状：なし 目標：設立

※ライドシェアとは

Ride（乗る）をShare（共有）するという「相乗り」を意味する言葉であり、自家用車を持つ一般のドライバーが有料で乗客を送迎する制度です。

中山間地域において、地域在住者の自家用車への相乗りを可能にすることで、高齢者等の買い物や通院などの日常生活の移動を支援することができることから、公共交通機関の不足を補う制度として、今後の活用が期待されています。

第4章 構想の推進体制と進行管理

第1節 構想の推進体制と各主体の役割

本構想の基本理念を実現させるためには、まちづくりの中心となる主体である三和町住民の自主性を尊重しながら、地域経済の中心となる関係機関・団体等や三和地区外の人とのつながりなど、三和町の持続的発展・活性化のための施策を積極的に推進していく必要があります。

本構想の推進にあたっては、三和町住民、関係機関・団体、三和地区外の人等の各主体との連携・協力により、各種施策を推進していくこととします。

1. 三和町住民に期待する役割

ふるさと「三和」に興味を持ち、それぞれがちょっとずつ前向きな行動を行い、その一つひとつの行動が集まることで、三和町の持続的発展・活性化がなされると信じています。性別や世代にとらわれず、今、三和町に住む一人ひとりが、三和町の活性化に中心的な役割を果たすことを期待します。

2. 関係機関・団体に期待する役割

三和町商工会などの経済関係団体、福島さくら農業協同組合やいわき市森林組合などの農林業関係団体、三和小中学校や三和地区各保育所など教育機関等の各団体・機関、三和町内の11行政区には、三和町住民や行政との連携を強化し、三和町の持続的発展・活性化に主体的な役割を果たすよう期待します。

3. 三和地区外の人に期待する役割

三和地区外の人には、中山間地域の持つ役割を十分に理解し、三和町に積極的に親しみ、魅力の発信者となっていただくよう期待します。また、三和町出身者にはふるさとに戻ってきてくれること、三和町出身ではない人には興味を持ってもらい訪れてくれること、住んでくれることを期待します。

4. 行政に期待する役割

国・福島県・いわき市の各行政機関には、三和町をはじめとして、市内中山間地域の振興を図るため、それぞれが密接に連携し、効果的な対策を推進していただくよう期待します。さらに、いわき市については、各部局において策定した計画等に基づき、三和町をはじめとした中山間地域に関する予算を十分に確保し、より一層、市内中山間地域に根差した事業を充実していくよう期待します。

5. 三和町地域振興協議会の役割

三和町の目指すべき姿の実現に向けて、行政及び関係機関・団体と連携を図りながら、当該構想を中心として、三和町のためのアイデアの実行をバックアップし、各種事業を積極的に推進します。また、三和町に住む人たちに対し、三和町地域振興協議会が果たしている役割について十分に広報・発信を行い、理解を深めていただくよう努めます。

さらに、法人格の取得等により組織の信頼性と透明性を高め、寄付や助成金などの獲得を積極的に行い、経済的基盤を拡充することで、当協議会の体制強化を図っていくよう努めます。

第2節 構想の進行管理

本構想の基本理念を実現するため、毎年度、PDCA サイクル（計画 Plan、実行 Do、評価 Check、改善 Action）により、見つかった改善点を次の年度の施策、さらには次期構想につなげ、本構想を継続的に改善させながら、施策の推進を図っていきます。

また、その評価（Check）を、三和町地域振興協議会総会において実施することとし、構想の進捗状況を定期的に確認できるようにし、その実施状況の点検と実施した施策の成果を評価し、次の施策への展開を改善することに併せ、社会情勢の変化に対応していくため、国・県・市の動向や施策展開等を構想に反映させていくなどのフォローアップを行います。



おわりに

- ・ 第2次三和町まちづくり基本構想策定に寄せて

第2次三和町まちづくり基本構想策定委員会委員長の寄稿文

- ・ 第2次三和町まちづくり基本構想の策定に携わって

第2次三和町まちづくり基本構想策定コーディネーターの寄稿文

- ・ 第2次三和町まちづくり基本構想の策定に携わって

第2次三和町まちづくり基本構想作業部会 11名の寄稿文

- ・ 画像データ等

上記を掲載予定

素案

第2次三和町まちづくり基本構想

～50年後も残る三和町～

みんなが自分のペースで無理なく進める

令和6年5月予定

発行 三和町地域振興協議会

福島県いわき市三和町下市萱字竹ノ内114-1（事務局：三和支所内）

TEL：0246（86）2111

FAX：0246（86）2544